

申志報



城岳同窓会総会と懇親会開かれる

■副会長に宮城勉校長

平成28年度城岳同窓会総会と懇親会が5月21日(土)、ロワジールホテル天妃の間にて開催されました。

総会では平成27年度決算及び事業報告、平成28年度の予算、事業案並びに副会長人事案が審議され、副会長に現那覇高校校長の宮城勉氏が就任しました。

懇親会には700名以上の同窓生が集まり、那覇高校在生によるダンスパフォーマンスで幕をあげました。演じた那覇高校ダンス部は県高校ダンスフェスティバルで最優秀賞を受賞し、平成27年度の城岳賞を受賞しました。

今年度の実行委員会は那覇高校39期生(昭和61年卒)で、「Nのために～つなげよう美ら心～」というキャッチフレーズ・ロゴが掲げられました。「N」とは二中・那覇高校そして仲間たちのイニシャルに由来し、「つなげよう美ら心」は先輩方への感謝、気持ちの一体感と次世代への継承を意味しています。毎年、卒業30年目の同窓生の実行委員によりすばらしい懇親会が開催され、多くの同窓生が集い交流できる楽しい場となっています。



総会で挨拶する嘉数昇明同窓会会長



那覇高校ダンス部によるダンスパフォーマンス



会場で配られたパンフレットと記念品(マグネット)



実行委員会のメンバー。中央は司会を務めたマモデル中沢初絵氏



卒後60周年を迎えた那覇高九期生の席

北海道城岳同窓会設立について

北海道城岳同窓会会長 八木 政明

昨年の秋頃だった、嘉数昇明会長から電話があり、「北海道に那覇高校卒業生は何人位いるかな？」と尋ねられた。長年、北海道沖繩クラブ（旧沖繩県人会）会長をしていた私は、130名程の会員の中から即座に、同期の山城君（剣道8段）スキー仲間の小児科医兼次邦男（18期）、北大文学部の新任教授瀬名波栄潤（32期）、泡盛の会に良く参加する後輩の金城政孝教授（28期）、そして嘉数会長と同期の嘉数侑昇北大工学部名誉教授などの顔が眼のまえに浮かんだ、「私を入れて7名は確実にいます。」と答えた。

嘉数会長は本部城岳同窓会事務局の会員名簿から北海道内に居住する同窓生を探索しようと提案された。一方、道内の沖繩県出身者に那覇高OBかどうか確認の電話をした。

今年、4月になって、本部事務局から報告が届いた。結果は江別市広川隆三（14期）、余市町伊波敏男（15期）、帯広市石山千恵子（16期）等の3名の同窓生を確認できた。

さらに札幌在住の方に久高秀盛（20期）、当山寛歯科医（22期）、平山こずえ（36期）、札幌市立大学デザイン科教授城間祥之（26期）の4名が判明、集計で14名となった。

GWで5月2日帰省、嘉数昇明会長と久しぶりに再会し、北海道城岳同窓会について検討して、5月14日（土）に設立総会を行う決定をした。

早速、城岳同窓会設立総会開催の案内を14名の同窓生に発送した。しかし緒事情の為に、出席の返事は8名だった。尚、来賓として北海道沖繩クラブ会長堀元進氏、名護高校出身北大名誉教授玉城英彦氏、首里高校出身堀元美奈子氏が出席された。

総会は式次第に則り、始めに那覇高校校歌を皆で歌った。「世紀の嵐吹きすさみ 故山の草木貌変え」歌詞を歌い始めると、遙か昔の高校時代の情景が走馬灯の絵のように思い浮かび懐かしく感じたのは私だけでは無かったと思う。余談ですが、当日、出席した堀本美奈子さんは校歌を作詞した真栄田義見先生の孫にあたる。

協議事項の審議に入る前に、城岳同窓会設立の趣旨説明を行った。現在、本州では関東、関西に城岳同窓会があり、それぞれ親睦の拠点として重要な要になっている。豊かな自然に満ちた雄大な北海道における城岳同窓会は日本列島を南北に結ぶ絆として存在感を有するネットワークを構築する。遠い将来に、必ずや現役学生の進路指導及び選択にあたり、また同窓生の親睦、交流に寄与すること間違いのない。ご賛同いただきたい。

説明の後、審議を経て、北海道城岳同窓会設立を全会一致で承認を得た。初代会長に八木政明、副



北海道城岳同窓会設立総会参加者での記念撮影。
(2016年5月14日、札幌ポールスターホテルにて)

会長には嘉数侑昇、幹事に金城政孝が選ばれた。

総会のあと、嘉数昇明会長からお祝いと激励の言葉を頂き、北海道沖繩クラブ会長よりご挨拶があった。懇親会は玉城英彦氏の乾杯のあと、出席者による自己紹介を兼ねたスピーチがあり、終始和やかな雰囲気ですぐに歓談が続いたが、再度、校歌を歌い名残おしく第1回総会を終えた。



楽しい会食、歓談タイム



嘉数会長からのからのお祝いと激励の言葉

更に2016年度城岳同窓会懇親会の場で来賓挨拶の機会をいただき、新調間もない「北海道城岳同窓会旗」を舞台上披露すると共に、設立総会の模様を大勢の同窓会員皆に報告できたことは嬉しい限りでした。

同窓生の本 続々と誕生

2012年発刊の『城岳百年』記念誌には、末尾資料として「同窓会生著作物著作物一覧」表が5ページにわたって紹介されている。同窓会に寄贈されたものが中心なので漏れもあるが、とにかく同窓生の出版物は多い。最近の出版物の一端を紹介する。

精力的に本を出しているのは、米国東部ニューイングランド在住で、文学博士の山口栄鉄さん(10期)だ。今年3月に『英国人バジル・ホールと大琉球—在琉二百周年を記念して』(不二出版)が刊行された。また同期の平敷慶武さん(大阪府立大学名誉教授)は一月に『わが少年期～僕へのラブレター(琉球新報)』を発売した。

琉球史の小説を多く手がけている劇作家の亀島靖さん(15期)は近著『万国津梁外伝三十六の鷹その一』(沖繩教販)を出している。

6月に相次いで2冊の本を出したのが、元琉球新報記者で平和ガイドをつとめる泡盛コレクターの池間一武さん(20期)。一つは『君知るや名酒あわもり 泡盛散策』(琉球プロジェクト)で、泡盛のあれこれを柔らかいタッチで綴り、酔わせる。もう一つは『復帰後世代に伝えたい「アメリカ世」に沖繩が経験したこと』(同)である。

法政大学沖繩文化研究所前諸所長の屋嘉宗彦さん(17期)は、研究者で多くの著書を持つが、近著『沖繩自立の経済学』では沖繩自立への道のりを説く。参考になる書だ。同じ17期で東京都在住の前川邦明さんが随筆集『帰省列車』、元琉球新報記者の松島弘明さんが戦後70年の節目に自身の家族の記録『遙かなる「満州」～父と母たちの昭和』をまとめた。

その他にも沖繩国際大学大学院教授の前泊博盛さん(32期)は『本当は憲法より大切な「日米地位協定入門」』(創元社)など政治経済関係の著書がある。またボーダーインク編集者の新城和博さん(34期)も『僕たちの沖繩〈復帰後〉史』や『僕の〈那覇まち〉放浪記』(共にボーダーインク)などを発売している。紙面が尽きたので今回はこれぐらいで。

八十歳の心境

アメリカ在住 真栄城 美枝子



2012年「城岳講座」の講師を務めた
真栄城美枝子氏

私は、今年80歳になった。昭和20年8月14日に、生まれて初めて友人を招待して9歳の誕生日のお祝いをすることになっていたのに終戦前日のゴタゴタでそれがとりやめになり私は運の悪い日に生まれたのだと自分で決め込んでいた。あれから何度誕生日を迎えたことだろう。でも80歳は怖かった。同期の平良亀之助さんが『琉球新報』のコラムに寄せた「傘寿の戸惑い」を読ませていただいた。しかもそれは私の80の誕生日の新聞である。なんと言うめぐり合わせだろう。私が表現できなかった心境を彼は私のために書いてくれたようで嬉しかった。入りたくない領域に押し込まれる戸惑いー。

私は去年の8月31日に完全に退職した。そして今年の1月から髪を染めるのをやめた。今更年期を隠す必要もないとの思いで。これも80の線を越える私の心の準備であった。おまけに80の手習いとして「ワシントン・ホトドギス会」に参加した。

弥生月エイッと飛び込む俳句の会

なんて川柳もどきの句を提出。8月の句会には、

八十路来て「老いと創める」蝉しぐれ

最近日野原重明博士の本『老いを創める』を読んだ。老いは受け身ではないというのが彼の意見で、老いは「始まる」のではなく「創める」べきだと言っている。私も同感である。強い事を言いながら私の拙句は下記のごとく頼りない。

おどおどと八十路の線を越えし夏

俳句のお陰で周囲を良く観察するのは楽しい事である。我が家のゴーヤーを観察しているうちに

ゴーヤーの蔓伸ばして延ばして風にゆれ

さて伸ばすと延ばすの違いは？ なんて考えるのも日本語の勉強になるし、頭の運動にもなるのではと自己満足をしている。

今年から新しいボランティアを初めている。非営利団体の日米ケアグループの図書室のお手伝いである。私は本に囲まれているのが好きな性分で結構楽しんでる。

3年ほど前から始めた太極拳は一生続けて行くつもりでいる。卓球は四年ほど前から始め少しは上達しているのが嬉しい。ゲラゲラ笑いながらするのはストレス解消に大いに役立っている。書道は十数年前から始めちっとも上達しないけど教室から見える雑木林を目の保養にしながら楽しんでる。

80歳。それは持ち物への愛着を捨てること。身辺を整理する年でもあるのではと思っている。思い出多いスライドの整理。残しておきたいのはコンピュータに入れたり。アルバムから残しておきたいものもコンピュータに入れるなどの雑用も結構時間がかかる。今日も小屋にある

ガラクタを捨ててきた。運よくジョージワシントン大学には沖縄コレクションが設置されたのですべて寄付しすっきりした気持ちである。

今年は私にとっては最後だと思うウチナーンチュ大会に出席するのを楽しみにしている。三週間いる予定だが親戚回りとか戦跡回りもゆっくりしてみたい。またあの辺野古へも。私が米国民政府の公衆衛生部に勤めている頃、環境衛生の職員のAサイン係とあの辺りのバーへ行ったのを思い出す。ちぢみ上がっていたバーのホステス達。高飛車な態度のハワイ二世。私は複雑な気持ちで見学した。そこがどうなったのかも確かめてみたい。

私も平良亀之助さんに真似て「これからは行け（生ける）ところまで」と私の拙い文章を閉じることにする。

同窓会トピック

●第八期 A 氏奨学生決定



A 氏奨学生は平成 20 年度からスタートし、本年で 8 年目となる奨学金で、毎年県外 3 名、県内 1 名の生徒の進学を手助けしている。今年は第 8 期生として 3 名が選考された。

写真左から上原春奈さん（筑波大学 体育専門学群）、嘉数佳乃さん（兵庫県立大学看護学部看護学科）、鉢嶺元陸さん（琉球大学 法文学部国際言語文化学科）。

●平成 27 年度城岳賞は那覇高ダンス部に



関西旗の左から水田仙子さん、嘉数昇明会長、大城一成関西会長を囲んで。

今年の城岳賞は那覇高ダンス部に授与された。那覇高ダンス部は今年 2 月開催された「県高校ダンスフェスティバル」で最優秀賞を受賞し、8 月に神戸で行われた全国大会にも出場を果たした。大会には関西城岳同窓会からも応援に駆けつけてくれました。

城岳賞の贈呈式は卒業式前日の 2 月 29 日、卒業式のリハーサルの際で行われた。

●熊本地震災害義援金贈呈

平成 28 年 6 月 20 日、城岳同窓会より今年 4 月の熊本地震で被災した方々への義援金 10 万円を日本赤十字社縄支部に贈呈しました。本義援金は 5 月 21 日に開催した城岳同窓会懇親会参加費の中から一部を義援金として送りました。

●二中「卒業アルバム」寄贈

平成 28 年 1 月 25 日、松島寛行（那覇高校 28 期生）さんより、2 年前に亡くなられたお父様、松島寛容（二中 25 期生）さんの貴重なアルバムと写真の寄贈がありました。

なお同窓会では、全ての卒業アルバムを収集したいと思いますので、卒業アルバムを寄贈出来る方は、今後は是非とも同窓会までお持ち下さいますようにご協力よろしくお願い致します。

「沖縄の島守」～島田知事を語り継ぐ71年目の夏～

島田叡氏事跡顕彰期成会・事務局 名嘉山 興武 (17期)

6月から8月、「沖縄慰霊の日」、「広島・長崎原爆の日」そして「終戦記念日」と続くこの季節は「祈り」の季節である。今年は、オバマ米大統領の広島訪問もありマス・メディアは「平和」について、大きく報道した。それらの中には、まさしく「71年前と変わらない同じ地平」にある今の沖縄の状況を、鋭くついているものもあった。上に立つ人、公職にある人の政（まつりごと）の姿勢は、まさに戦禍の中、絶えず県民の目線で牽引した島田叡知事、荒井退造警察部長に学ぶべきものだと思う。

兵庫・沖縄そして栃木、広がる交流

戦後70年にあたる昨年6月26日、「第27代沖縄県知事島田叡氏顕彰碑除幕式」が奥武山運動公園内で行われた。井戸兵庫県知事を団長とする約100名近くの「兵庫県民代表団」は、式典参加をはじめ、兵庫県独自の多数のプログラムを企画。島田叡氏の縁が結んだ、3日間にわたる兵庫と沖縄の交流行事を盛会裏に終えた。また、代表団の中核をなした武陽会（神戸二中・兵庫高校同窓会）は、その後も、兵庫高校の「沖縄修学旅行」の支援や「城岳同窓会総会・懇親会」、「二中健児の塔慰霊祭」等への列席をいただいている。

一方、島田知事と苦労を共に二人三脚で奔走し、県民保護に尽力した荒井退造警察部長の故郷・栃木県。先の「島田叡氏顕彰碑除幕式」への参列を機会に、栃木と沖縄の交流が一気に進んだ。糸満市の小学校とのスポーツ交流、平和祈念堂における「追悼コンサート」、「荒井杯」贈呈と宇都宮高校野球部の沖縄遠征・親善試合等々がある。「荒井杯」は、既に県高野連新人中央大会の優勝校に「島田杯」が授与されている先例に倣い、宇都宮高校同窓会から「『二人の島守』の事跡を高校球児に語り継ぎたい」との提案で、実現した。

今なお続く、島田叡知事の足跡辿る旅

東大野球部は、近年春季キャンプを沖縄の地に張り、野球部の先輩である島田叡氏の足跡を

辿る中から「野球人 島田叡」を学ぶ。沖縄銀行本店ロビーでは、県民カルチャーの場として3週間の長きにわたり「-没後70年-島田叡展」を開催。

繁多川公民館は、地域に根差した活動「島田知事が通った道～県庁・警察部壕から首里32軍司令部壕まで～」の検証事業を実施。また、子どもたちに平和の尊さ教え、健やかな成長を願うペリー保育園の平和学習は、園児と父母が共々に参加し、「島田叡氏顕彰碑」前で琉舞を奉納した。

さらに、那覇高校PTA主催の視察



那覇高校PTA主催の視察研修「島守の塔～島田叡氏の足跡を辿る～」に参加メンバーの記念写真

研修「島守の塔～島田叡氏の足跡を辿る～」には、生徒を含め 31 名が参加。その行程は、繁多川公民館（講話）⇒県庁・警察部壕視察・参拝⇒南部撤退「戦世の県庁～壕から壕～」(バス車窓)⇒魂魄の塔⇒轟の壕視察・参拝⇒平和祈念公園・「島守の塔」参拝⇒「島田叡氏顕彰碑・野球資料館」視察（奥武山）である。

多くの PTA 会員の皆さんに感銘を与えた 9 時間にわたる現地ツアー。その感想は、「防空壕は聞いていたものの、今回初めて入り、暗い、狭い、不便を痛感しました。そんな中での県政、ゆらぐことのない意思、生きてこそつながる命、平和の有り難さを改めて感じている。」

「『平和の武器は学習』というのには本当だなと痛感。戦争の悲惨さをもう二度と繰り返してはならないと実感する。」(※「命どう宝」、語り継ぐ「平和学習」を実感)「生死を目前に毎日過ごしていた戦中の人々に、生きる力を与えてくれた島田叡氏のヒューマニズムに感動と感謝の心を刻んだ一日でした。」(※「至誠の人」島田叡・荒井退造)等々である。

結びに ～「二人の島守」の姿を未来に語り継ぐ～

島田氏母校である兵庫・武陽会では、新たな取り組みとして「島田叡氏ユネスコ世界記憶遺産登録プロジェクト委員会」を設置、世界記憶遺産登録へ向けてその活動を開始させた。また、荒井氏の母校、栃木・宇都宮高校では「宇高の沖縄研修旅行」が復活する。

沖縄からは、先の顕彰事業が単に一過性で終わるのでなく継続した運動として、毎年、この「祈り」の季節に兵庫・栃木・沖縄が互いに連携し、地元新聞紙上に俳句、短歌等を掲載する。すなわち、島田、荒井両氏の高潔で崇高なヒューマニティを、高らかに詠い語り継ぐ「島守忌」の提案がある。是非実現したいものだ。

- ・ふるさとの いやはてみんと 摩文仁丘の 巖に立ちし 島守のかみ (仲宗根政善)
- ・島守の 塔にしづもる そのみ魂 紅燃ゆる 歌をききませ (山根 斉)
- ・島の果て 世の果て繁る この丘が (山口 誓子)

71 年目の「二中健児の塔」慰霊祭

今年も慰霊の日の 6 月 23 日、城岳公園内の二中健児の塔前にて慰霊祭が行われました。

沖縄戦の県立第二中学校の戦没者の冥福を祈り、平和を祈念する機会として城岳同窓会、二中健児の塔遺族会、県立那覇高校主催で開催されています。式典には遺族、二中同期生、城岳同窓会員、本校職員、本校 PTA、教育実習生、生徒会役員、学級代表（正副級長 2 名）、吹奏楽部・合唱部、放送部が参加し追悼しました。

6 月 18 日には那覇高 16 期生の有志（8 日会）によるスチーム洗浄と周辺の木々の伐採が行われ、慰霊祭前日 6 月 22 日には那覇高校在校生による清掃が行われ、慰霊祭に備えました。



遺族、同級生によるお焼香



城岳公園を清掃する那覇高 3 年生

城岳同窓会の終身会費について

一般社団法人城岳同窓会は会員相互の親睦を図るとともに、那覇高等学校の発展に寄与すること及び地域社会に貢献する事を目的としております。また、本会の経費は会員の拠出金、寄附金、事業収益金及びその他の収入をもって充てしております。

さて、会員の拠出金は、年会費 1,000 円または、終身会費 5,000 円によって賄われております。年会費を一括で 5,000 円を納入した場合は、終身会費と見なし、以後年会費は徴収致しません。伝統校の誇りと自信に満ちた校風の継承と発展の為、同窓生一人ひとりの積極的なかわりとご芳志をお願い致します。

振込先： 琉球銀行樋川支店 店番号 314 口座番号 普通 338301

口座名義人： 一般社団法人城岳同窓会 会長 嘉数 昇明（カカズ ノリアキ）
ご芳名の前に卒業期をご記入下さい。

問合わせ： 一般社団法人城岳同窓会 事務局 與儀 幸英

〒900 - 0014 沖縄県那覇市松尾1丁目21番53号

TEL (FAX) : 098 - 867 - 2525

城岳同窓会館のご案内

「母校に同窓会館を」との声が同窓生の間から叫ばれ、同窓生各位のご尽力により平成8年に実現しました。会館は同窓会員の親睦の場です。会員のみなさん、どうぞご利用下さい。

- ・2階は二中・那覇高の歴史を後世に語り継ぐ資料展示室及事務室
- ・3階は会員のクラス会、会議、趣味の集まりなどに利用でき、収容人員は50人です。なお、使用料金（光熱費）は1団体：1時間800円です。
- ・4階は自学自習室として、学校が活用しています。



『創立百周年記念誌 城岳百年』
城岳百年の節目に発刊された記念誌が残り少なくなってきました。本書は百年の歴史、同窓生の人物群像等、別冊・会員名簿やDVD付きの豊富な内容で2,000円にて頒布しています。ご購入ご希望の方は、同窓会事務所にて直接購入か、ホームページ、あるいはお電話でお問い合わせ下さい。

城岳同窓会ホームページ
<http://www/jogaku.or.jp>

城岳同窓会会報

編集発行 城岳同窓会 〒900-0014 沖縄県那覇市松尾1-21-53 電話・FAX 098-867-2525

E-mail : yogi@jogaku.or.jp